

佐賀北部8地区の活動拠点に 「集落活動センター佐賀北部」

1月25日、旧拳ノ川保育所で、町内で2カ所目となる「集落活動センター佐賀北部」の開所式が行われ、地域住民らと活動拠点の誕生をお祝いしました。

同センターの運営は、佐賀北部地域8集落で組織する黒潮町佐賀北部活性化推進協議会。「食」「楮」「ユズ」の3部会で、毎月第2・第4土曜日の「さが谷三里マーケット」や、地域古来の特産品「若山楮」の栽培など、地域特性を生かした活性化に取り組んでいます。旧拳ノ川保育所は現在、調理室や作業場などを整備中で、今月中旬に完成予定です。（企画振興係）



看板を設置する尾崎正直知事、大石正幸佐賀北部活性化推進協議会長、大西勝也町長。

「命の教育」で主体性育む 黒潮町津波防災教育プログラム

黒潮町では、今年度、群馬大学の片田敏孝研究室の指導を得て、町独自の防災教育プログラムを作成しました。

災害のメカニズムや対応策などの知識を習得する「防災知識の教育」だけでなく、自然との関わり方を学び生き抜く力を育む「命の教育」に主眼を置き、避難訓練などの実践を通じて、自ら主体的に「生き抜く力」を身に付けることを目指しています。

「防災教育は地域を変える」と片田先生。災害に強い防災文化を作るため、家庭や地域のご協力をお願いします。（学校教育係）



完成した「津波防災教育プログラム」を大西町長に手渡す、群馬大学・片田敏孝教授。

秋澤香代子さん 津波題材の短歌2首町へ寄贈



「大津波来たらば共に死んでやる 今日も息が言う足萎え吾に」
「この命落しはせぬと足萎えの 我は行きたり避難訓練」
対照的な気持ちを詠んだこの2つの短歌は、どちらも秋澤香代子さんの作品です。

右は、平成24年の「大方の秋まつり」に出品された歌です。右足が不自由な秋澤さんは、最大津波高34メートルの想定を受け、避難をあきらめ「自分を置いて逃げて」と家族に言っていたのだそう。

その後、町などが防災対策を進める中で起こった心境の変化を詠んだのが左の歌。今では、地震が起きたら、家族とともに車で高台

黒潮一番館に新メニュー登場！ 毎週水曜日は「500円ランチ」も

2月より、カツオふれあいセンター黒潮一番館に新メニューが登場しました。カツオのハランボがごろごろ入った「カツオカレー」(800円)は、カツオのカルパッチョサラダ付き。子ども用と辛めの大人用があります。また、毎週水曜日限定の「500円ランチ」は、「カツオチャーハン」とアラ汁のお得なセットです(別のメニューになることもあります)。ぜひご賞味ください。



〇お問い合わせ 黒潮一番館(☎55-3680) 午前11時～午後3時まで営業、火曜日定休。

へ避難しているそうです。

このたび、この2つの作品を黒潮町へ寄贈いただきました。作品は、本庁1階ロビーに展示します。